

## ○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された建設委員長報告は、以下のとおりです。

令和2年2月定例会

### 建設委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、ダム貯水池保全緊急対策事業についてであります。

このことについて一部の委員から、当事業は、堆砂率の高い鹿森ダムで洪水調節機能の向上を図るとのことであるが、その実施内容はどうか。また、他のダムの対応はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、鹿森ダムは堆砂率が200%を超えており、これまで上流の貯砂ダムを中心に堆砂除去を実施してきたところである。

来年度には、ダム貯水池への進入路が完成し、直接貯水池内の掘削が可能となることから、洪水調節容量内等の土砂を除去することとし、まずは主放流管付近の約1万 $\text{m}^3$ の堆砂除去に本格的に取り組むこととしている。

また、黒瀬ダムや玉川ダムでも堆砂が進行していることから、ダム管理施設改良費などの予算も有効に活用しながら堆砂除去に努めていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、自転車走行環境整備事業についてであります。

このことについて一部の委員から、当事業は、前年度に比べ大幅に予算が増加しているが、その整備内容はどうか。また、他の地域と差別化を図るための取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、しまなみ海道は、昨年11月にナショナルサイクルートの指定を受け、国内外から幅広い世代の利用が見込まれることから、更なる安全性の向上に向け、来年度以降も自転車の走行環境整備に取り組むこととしている。

具体的には、歩道の一部を路肩に転換し、車道と歩道の間自転車用の走行空間となる広幅路肩整備をはじめ、高速本線取付部の急勾配連続区間等への注意喚起看板の設置などを行うこととしている。

特に歩道の一部を路肩に転換する取組みは、本県独自の取組みであり、他のルートとは違った、世界に誇れるルートとして整備していきたい旨の答弁があ

りました。

第3点は、愛南町における海岸保全施設の整備等についてであります。

このことについて一部の委員から、津波の脅威にさらされている地域では、ハード・ソフトの両輪で進めていく必要があると思うがどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、愛南町は、町民の津波に対する防災意識が高く、避難訓練や防災教育に力を入れるとともに、津波避難ビルの指定を進めており、津波避難タワーについても検討しているところである。

また、ソフト対策だけでは、町民の生命を守れても、貴重な資産が失われ、復旧・復興に相当の時間を要することになるため、町民の合意のもとに、一日も早いハード整備による津波対策を進める必要があると考えており、ハード・ソフトの両輪でしっかりと津波対策を進めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・新型コロナウイルス感染拡大による建設資材等への影響
- ・建設業の担い手確保対策
- ・県営住宅管理条例の改正と県営住宅のバリアフリー化

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。